

# Jazz Interview Vol.16

★ ジャズ・テロリズム&侍ベーシスト! ★

## 加藤真一【Shinichi Kato】

今、日本のジャズ・シーンを騒がせているスガダイロー (p) と加藤真一 (b) によるデュオ = “ジャズ・テロリズム”。この“Samurai Jazz!” を提唱する Jazz Samurai のひとり、日本が誇る侍ベーシスト = 加藤真一が “ジャズ・テロリズム” 待望の新作 & 第2弾 = 2008年10月10日「Tokyo TUC」で行われたライブ録音を収めた『ジャズ・テロリズム《豪快篇》』のリリースを控える中、本誌 Jazz Interview に登場してくれた! 筆者がNYに居た頃からそのベースには圧倒されていたが、インタビューに同席してくれた「Roving Spirits」の社長 = 富谷さんも「私が現在最も信頼しているミュージシャンが加藤真一です!」と言い切るように、その存在感は大きい。

第3弾は仲間が増えて「7人の侍」? 次のジャケットは「子連れ狼」風? など今後の“ジャズ・テロリズム”の動向にも注目しながら話を聞いた!

(2009年2月4日(水)「モディッシュ(馬車道店)」にて)

取材 & 文 : 加瀬正之



photo by Osamu Tamura

● まず、今回の新作がライブ盤になった経緯は?

このライブの前作(『ジャズ・テロリズム』第1弾)のレコ発ライブなんです。それまでずっと参考のために録音しようと思っていて、それでこのライブの日も録音したんです。それを富谷さんに聴かせたら「出そう!」って言われたのがきっかけですね。

● スタジオでの録音は考えなかったのですか?

そもそもCDを作ろうということをあまり考えてなくて、とりえず2人で演ったライブは全部録音しておこうと思っていました。当初はそれを「iTune」に乗せようっていう話だったんだよね。

(富谷さん): 演奏はいいんだから、とりえずライブの音を全部録っておこうと思ってね。それで「iTune」に乗せて配信でいいと思っていたんだけど、音もきれいで周りの人たちからも「面白い!」って言われるし、ピアノも良かったんです。だから、これは出さない手はないと思ってCDにしました!

● レコーディングの時に何か特別な気持ちはありましたか?

ダイローと演る時は「オリジナルは演らないでスタンダードを演奏する! リハーサルもしない!」って決めていて、一発で演ってダメなのはダメ。発展していくのはどんどん発展させようっていう感じで演っているんです。あと、基本的に前に一度演った曲は演らないって決めているんで、毎回挑戦ですね。

● 収録曲の中で手ごたえや特別印象深いナンバーは?

いろいろと反省点や失敗もあるけど、「アイ・ラブズ・ユー・ボーギー」や「ザ・マン・アイ・ラヴ」は面白かったかな。あと、「ハイ・フライ」とかね。ヘンテコでしょ? (笑) でも、今回はダイローの方が活躍したよね。

(富谷さん): 評論家の人たちの間では「コンファメーション」が一番受けてたみたいだけどね。

あれもね、エンディング間違っているんだよね…ああいう終わり方するとは思わなかったからさ(笑)。結構そういうのがいろいろあるけど、いいやつだったね。でも、この2人の場合は何かハプニングが起きた時に録れているのが一番いいんです。

● 2月18日に「新宿 ビットイン」で新作の発売記念ライブが行われますが、何か特別な演出は考えているのですか?

特に何も考えてないです(笑)。ダイローがどこでどうするか次第だけど、ポクも何曲か用意しようとは思っているんだけどね。

● インパクトのあるジャケットは誰のアイデアなのですか?

自分たちのアイデアではなくて、ポクが口を滑らせたことで、富谷さんが全部やっちゃったんです! でも、実際にやっぱインパクトって必要ですね(笑)。

● どこで撮影されたのですか?

お台場公園。だから、レインボーブリッジとか見えているでしょ。(富谷さん): このジャケットにもちゃんと話があるんだよね。

● どういったストーリーなのですか?

ポクがね、何か「食い詰め浪人」だって言うんですよ!(富谷さん): 江戸・品川からその辺りに住んでいる「食い詰めた浪人」が加藤さんと、ダイローは農家の次男坊が三男坊で「もろ百姓なんてやってられるか!」っていう「木枯らし紋次郎」のつもり。それで「江戸っていうのはどういう所か見てやろう!」って流れ歩いて、お台場で「食い詰め浪人」と会って「何だ、この野郎!」って喧嘩になっちゃう。それで斬り合いになると。

全く関係ないけどね(笑)。

(富谷さん): 2人の演奏聴いていたら、なんかそういう感じがしてきてね。加藤さんが「Samurai Jazz!」とか言うから(笑)。

● スガさんの昨年8月のソロ・デビュー作『スガダイローの肖像』のフライヤーで、スガさんが股旅姿で写っていましたが「ジャズ・テロリズム」のデュオを意識してのことだったのですか?

ダイロー好きなんです。あの三度笠とマントはダイローの自前で、それ着て自分のトリオ「リアルブルー」でライブ演ったりもしてるんです。ポクはあんなの着たら演奏できないけど(笑)。

● 2月18日の「新宿 ビットイン」でのレコ発ライブ後、(3月5日)「清水 マーカムホール」~ (3月6日)「名古屋 ドキシー」~ (3月7日)「甲府 コットンクラブ」~ (3月20日)「岩本町 Tokyo TUC」~ (4月11日)「蒲田 パータイム」とライブがありますが、2人のライブが少ない気もしますが…

2人のスケジュールが合わないんです。ダイローも忙しいし、ポクもそんな暇でもないし、それでなかなかスケジュールが合わないってこともあるし、あと、あんまりたくさん演りたくないんです(笑)。普通のライブとは違うからね。ダイローはどうか知らないけど、ポクはちょっと疲れるんで、これ演ると(笑)。毎日は演りたくないな…1回演ったら暫くは休みたいなと(笑)。

● 元々、加藤さんがスガさんを抜擢したそうですね

ダイローとはフリー(フリー・ジャズ)でしか演ったことなかったんだけど、面白いピアノだから1回デュオで演ってみようって、アップライト・ピアノのあるバーで仕事を取って来たんです。いろいろ試してみようと思って、それで1曲目にビバップの曲を演ったんだけど、それがやけに面白くてね。譜面もいろいろ持って来たんだけど、それも全部やめてお互い知っているビバップの曲を演ったら、それがとんでもない方向に行って面白かったんです。

それが2007年でした。とりえず録ってみて、それを富谷さんが面白くなってね(笑)。でも、富谷さんが実際にライブを見に来た時はダイローがちょうどインフルエンザにかかっていたんですよ。最悪な体調だったから、1曲除けて全部ボツでしたけど。(富谷さん)：その1曲、“インフルエンザ・セッション”で最後に演った「ムース・ザ・ムーチ」を1作目に入れなくて、その後に出したうちの「Jazz Spirits」のコンピ盤に入れたんですよ。まあ、ダイロー本人は不満だっただろうけど(笑)。

● 加藤さんから見てピアニスト＝スガダイローとは？

ダイローはなかなかいないタイプですよ。ポクがプロデュースさせてもらった浅川太平っていうピアニストがいて、そのピアノもかなりヘンテコで面白いんですけど、そいつとダイローっていうのは洗足学園短期大学の一期生なの。偶然そうだって聞いたんだけど、個性が全く違うのに同じ学校で勉強していたっていうのが面白くてね。その後、ダイローはパークレーンに行ったって聞いたんだけど、パークレーンって独特のパークレーン色ってあるじゃない？でも、ダイローは全くその色がないんだよね(笑)。パークレーンではCDに傷つけて音飛びを楽しんでたって言うしね(笑)。(富谷さん)：あの針飛びの感じを実際に演奏しちゃったのが前作に入っている「ボディ・アンド・ソウル」なんですよ(笑)。

● 「ジャズ・テロリズム」は加藤さんには特別な存在ですよ？

ダイローが面白くなって思いますね。ビバップがちゃんと弾ける、それもかなり上手弾けるってあるでしょ。でも、本人は頭がフリーだから(笑)、それが面白いなあと思いますね。それと、絵画的に言えば「コラージュ」みたいな、要するにフリー一辺倒でずっと同じものがフリーで続くっていうのではなくて、何かいるんならど折り合わさってる感じを楽しめるっていう、そこが2人の共通点かなとは思ってますけど。そういう意味で、わりと気が合って演奏できる1人ですね。ポクと一緒に演奏しているピアニストたちは、ほとんどポクが追いかけていかなきゃいけないような名人たちですよ(笑)。でも、ダイローと演る時はどっちも勝手なことを言ってもいいという風にしてあるんで(笑)。僕もテンション上がるし、それが楽しいですね。

● 第3弾はまた驚きのアイデアを考えているのでしょうか？

CDを作るというより、とりえずは録音を続けようと思っています。その中で何か面白いことが起きたりするかもしれないからね。

● 加藤さんのベースはNYに居た頃と同じものですか？

NYに居た頃に使っていたのはフランスの楽器だったんだけど、あれは日本に帰って来た時に売っちゃって、その後ルプナーっていう楽器に変えて、今は1837年に作られたオーストリアのオールドの楽器を使っています。ドイツのオーケストラの人が持って来て日本で売ったものですけど、いいですよ！弦はスピロコアのバイヒっていうライトゲージを使っています。

● 加藤さんのバンド「B-Hot Creations」の新作の予定などは？

4月8日に「新宿 ビットイン」でライブを演ります。4人のメンバーにフルートとバスクラリネットを入れて演るんです。新作に関しては富谷さんと話しているんですけど、4月8日のライブのメンバーにパーカッションとあともう1人くらい入れて大きな編成でライブ録音をしようと思っているんですよ。5月には「横浜 エアジン」でインプロ祭(横浜国際インプロ芸術祭)に出るんです。



photo by Osamu Tamura

その後「渋谷 JZ Brat」が決まっています、8月は九州を旅しようと思っているんですよ。本当はこのバンドで自分の好きなこと演りたいと思って、最初はそういう風に演っていたんだけど、バンドが熟してきちゃってね。ポクはもう普通に弾いてりゃいいかなあ…みたいになっちゃって(笑)。だから、自分の演りたいことは全部ダイローとのデュオで演っています！あと、佐藤さん(佐藤允彦)とはトリオでパツハの曲をレコーディングする予定です。

● 加藤さんのソロ・アルバムの予定は？

ソロでは特に考えていないですよ。前回ソロを出したのは10年前、僕が40歳の時で、今50歳だから今年またソロを出そうと決めていたんですけど、もうちょっと何か演らなと…と思ってやめました！60歳の時にしますよ(笑)。

● 加藤さんから見て今の日本のジャズ・シーンはどうですか？

それほど聴いていないし、広くは見ていないけど、まだアメリカを追っかけているっていう感じがあるよね。だから、自分の言葉で喋ってるような人たちが増えてくるといいなと思いますけど。

● 最後に「Jazz Samurai」として、『The Walker's』読者のみなさんへのメッセージをお願いします。

まずは新作を聴いてみて下さい！

★ 富谷さんの粋なはからいで『The Walker's』読者(5名！)の方にスガダイロー×加藤真一の貴重な直筆サイン入りCD『ジャズ・テロリズム<豪華篇>』を豪華プレゼント！

ご希望の方は、「送付先住所」「氏名」「電話番号」を記載の上、下記アンケートに答えて、件名に「ジャズ・テロリズム サイン入りCDプレゼント係」と明記の上、E-mail: thewalker@k07.itscm.net 宛てにお送り下さい。

【アンケート】①性別 ②年齢 ③職業 ④本誌をGETした場所

⑤「加藤真一」インタビュー記事の感想 ⑥本誌の感想

【\* 当選は発送にて代えさせていただきます】

【加藤真一 Official Web Site】<http://www.katoshinichi.net/>

【スガダイロー Official Web Site】<http://sugadairo.exblog.jp/>

“ジャズ・テロリズム” 記念すべき第1弾アルバム！



ジャズ・テロリズム  
スガダイロー×加藤真一

Roving Spirits: RKCJ-2034  
¥2,500 (tax in)  
Now On Sale!

“ジャズ・テロリズム” 注目の新作&第2弾アルバム！！



ジャズ・テロリズム<豪華篇>  
スガダイロー×加藤真一

Roving Spirits: RKCJ-2040  
¥2,500 (tax in)  
2009.2.18 In Stores!